

日刊建設工業新聞

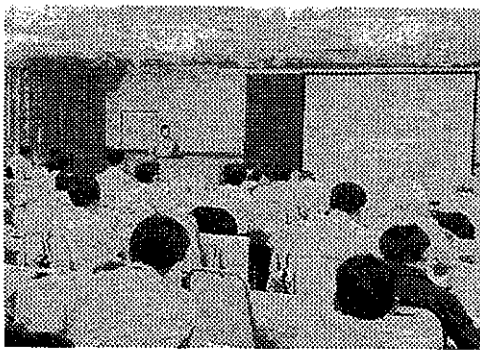
10月3日

木曜日
第18315号

特色と施工実績紹介

VSL協会 仙台で技術講習

永久アンカー工法の一つ、VSL永久アンカー工法の普及を進めるVSL協会(会長・田中茂義



大成建設常務執行役員社長(室長)は9月13日、会員の技術力向上などを目的に東北地区の技術講習会を仙台市宮城野区の仙台サンプラザで開いた。写真。約70人が参加した。

講習会では協会技術員が講師となり、特色や施工実績など紹介したほか、京大大学院工学研究科の水戸義忠准教授が「岩盤斜面事故」ケース

ヒストリーとその克服」をテーマに特別講演を行った。参加者には地盤工学会認証の「CPDポイント」が発行された。

VSL永久アンカー工法は、スイスのロージンガー社が開発したもので、注入パイプ一本で内外のグラウト工が行えることが特色。コルゲートシースの径と削孔径の細径化が図れ、コスト縮減が可能。わが国への導入後多くの実績がある。砂防・地すべり技術センターから技術審査証明されている。